

村山地域における次期「山形県地域公共交通計画」の「地域別目標」（案）について

◆ 「地域別目標」の考え方

● 村山地域の特徴

- 県内4地域のうち、最も人口が多く、東南村山（3市2町）、西村山（1市4町）、北村山（3市1町）の各地域として圏域を形成したうえで、全体として村山地域（7市7町、山形連携中枢都市圏）を形成している地域特性がある

⇒ 重層的な地域特性を踏まえ、以下の区分のとおり、村山全域の目標と、東南村山、西村山、北村山の3地域ごとの目標を設定する

【地域区分】 I. 村山全域 II. 東南村山地域 III. 西村山地域 IV. 北村山地域

● 山形連携中枢都市圏の動向

- 山形連携中枢都市圏（7市7町）では、「山形連携中枢都市圏ビジョン（令和2～6年度）」に基づき、交通ワーキンググループ会議を設置・運営し、広域的な公共交通ネットワークの構築に向けた検討・調整を行っている

＜参考＞ 村山管内市町における地域公共交通計画 山形市（令和3～7年度）、西川町（令和4～8年度）

● 政府の動向

- 政府（国土交通省）では、「『地域公共交通計画』の実質化に向けたアップデート」や「地域の公共交通リ・デザイン実現会議とりまとめ」を公表し、地域の多様な関係者の連携・協働による、持続可能な地域交通の再構築を実現するための取組みを進めるとともに、「『交通空白』解消本部」を設置し、「地域の足」や「観光の足」としてタクシー等を地域住民や来訪者が利用できる状態を目指すこととしている

⇒ 山形連携中枢都市圏としてのこれまでの検討状況、政府における施策の推進方向を踏まえ、以下のとおり、村山地域における地域公共交通の「将来像」を設定する

【将来像1】 山形連携中枢都市圏や3地域における広域的な公共交通ネットワークの構築

【将来像2】 村山地域の「地域の足」や「観光の足」を支える新たなモビリティサービスの導入

◆ 「地域別目標」 (案)

I 村山全域

将来像	目標	対応策
1 山形連携中枢都市圏 における広域的な公 共交通ネットワーク の構築	① 三次医療機関（山形大学医学部附属病院、県立中央病院）への通院、大学・短期大学や高校への通学の利便性の向上など、 村山地域14市町の主要駅・バス停などの「交通結節点」 をつなぐ「 地域の足 」の確保	○乗降の調査・分析や、実際に設定されているダイヤの妥当性の検証を行い、利便性の向上に努めるとともに、沿線市町とともに路線維持・利用促進策等に取り組む ○地域公共交通の利便性の向上や利用促進に向けて、「交通結節点」における乗換機能等の充実に取り組む
	② 二次医療機関（山形市立病院済生館、済生会山形済生病院、県立河北病院、北村山公立病院）への通院、高校への通学の利便性の向上など、 地域間（東南村山、西村山、北村山） をつなぐ「 地域の足 」の確保	○乗降の調査・分析や、実際に設定されているダイヤの妥当性の検証を行い、利便性の向上に努めるとともに、沿線市町とともに路線維持・利用促進策等に取り組む ○東南村山と西村山、北村山と西村山をつなぐ路線については、県立河北病院と寒河江市立病院の統合再編に伴う新たな病院の建設地の動向に留意しつつ、沿線市町とともに統合再編後の路線について検討する
	③ 山形空港や主要駅などの「交通結節点」と、蔵王・山寺、月山、銀山温泉などの「観光地」との移動を支える、 村山全域における「観光の足」 の確保	○空港二次交通を含めた、観光における公共交通の更なる利用促進に取り組むとともに、新たな各種サービスについて企画・立案を行う

◆ 「地域別目標」（案）

I 村山全域

将来像	目標	対応策
2 村山地域の「地域の足」や「観光の足」を支える新たなモビリティサービスの導入	① 利便性の向上につながる交通系ＩＣカードの利用区域の拡大など、キャッシュレス決済の推進	○鉄道（Suica） ・利用区域の拡大に向けて、「やまがた鉄道沿線活性化プロジェクト推進協議会村山ワーキングチーム」において、沿線市町等とともに利用促進策に取り組む ○市町村運行生活交通路線（yamako cherica） ・「ＩＣカードの利用データの蓄積」などの導入の意義を踏まえ、各市町とともに利用促進策等に取り組む ・「移動のシームレス化」や「キャッシュレス化」の実現に向けて、各市町に働きかけを行うとともに山交バス等と調整する
	② 乗務員不足の解消を見据えた、市町村営バスなどの市町村運行生活交通路線への自動運転の導入	○当面は、先行自治体の導入実績や実証試験の動向、自動運転技術の進展などの状況を注視しながら、村山地域における導入に向けて調査・検討していく
	③ 持続可能な地域経済の循環につながる、タクシーなどによる移動の利便性の確保	○タクシー事業者との意見交換を行い、乗務員不足の解消に向けた取り組みや、日本版ライドシェアをはじめとした多様な主体による移動手段の確保について検討していく

Ⅱ 東南村山地域

将来像	目標	対応策
1 東南村山地域における広域的な公共交通ネットワークの構築	① 二次医療機関（令和13年度までに山形市立病院済生館の新病院整備予定、済生会山形済生病院）への通院、高校（東南村山公立11校、私立7校）への通学、買物の利便性の向上など、市町間をつなぐ「地域の足」の確保	○山形市立病院済生館 ・令和4年6月に策定された「山形市交通結節点整備方針」に基づき、乗換機能や拠点形成機能等の整備について検討する ○済生会山形済生病院 ・既存の路線については、乗降の調査・分析を行い、利便性の向上に努めるとともに、沿線市町とともに路線維持・利用促進策等に取り組む ・現行の「山形市地域公共交通計画」を踏まえ、北部循環バス「北くるりん」の導入については、村山地域14市町からの県立中央病院への通院の動向なども踏まえて検討する

Ⅲ 西村山地域

将来像	目標	対応策
1 西村山地域における広域的な公共交通ネットワークの構築	① 二次医療機関（令和13年度までに県立河北病院と寒河江市立病院の統合再編予定）への通院、高校（西村山県立4校）への通学、買物の利便性の向上など、 市町間をつなぐ「地域の足」 の確保	○当面は乗降の調査・分析を行い、利便性の向上に努めるとともに、沿線市町とともに路線維持・利用促進策等に取り組む ○新たな病院の建設地の検討状況にあわせて、西村山地域における患者の医療機関への通院の動向などについて調査・分析を行うとともに、新たな路線・ダイヤと地域公共交通ネットワークを検討する
	② 小・中学校の統廃合（寒河江市、河北町、朝日町）を見据えた、 スクールバスへの住民混乗等 の導入など、「地域の足」を支える市町村営バスなどの 市町村運行生活交通路線の利便性の向上	○スクールバスの運行状況・見通し等を踏まえ、学校や住民、運行事業者などと意見交換を行い、住民混乗等の導入に向けた検討を行う

Ⅳ 北村山地域

将来像	目標	対応策
1 北村山地域における広域的な公共交通ネットワークの構築	① 二次医療機関（令和13年度までに北村山公立病院の新病院整備予定）への通院、高校（北村山県立3校）への通学、買物の利便性の向上など、市町間をつなぐ「地域の足」の確保	○令和13年度までに予定されている北村山公立病院の新病院の整備については、現在地への建設を想定して、当面は乗降の調査・分析を行い、利便性の向上に努めるとともに、沿線市町とともに路線維持・利用促進策等に取り組む ○新病院の整備の検討状況にあわせて、北村山地域における患者の医療機関への通院の動向などについて調査・分析を行うとともに、新たな路線・ダイヤと地域公共交通ネットワークを検討する
	② 小・中学校の統廃合（村山市、尾花沢市、大石田町）を見据えた、スクールバスへの住民混乗等の導入など、「地域の足」を支える市町村営バスなどの市町村運行生活交通路線の利便性の向上	○スクールバスの運行状況・見通し等を踏まえ、学校や住民、運行事業者などと意見交換を行い、住民混乗等の導入に向けた検討を行う